

あおぞら

発行:愛知県被災者支援センター
住所:名古屋市東区泉 1-13-34
名建協 2階
TEL:052-971-2030
FAX:052-971-2050
開館:月曜～金曜 10時～17時



【東日本大震災 犠牲者追悼式】



募集中



- ☆『あおぞら』編集委員:「私のお気に入りスポット」や「私のおすすめの一冊」、「我が家の自慢のレシピ」等の取材・投稿
- ☆新聞スクラップのボランティア: 定期便に同封の東北の地元新聞(『河北新報』・『福島民報』)のスクラップ作業
- ☆表紙の絵・写真: お子さんの絵、または趣味の写真など



愛知県・新型コロナウイルス感染症「県民相談総合窓口」
(コールセンター)

電話: 052-954-7453 (9:00~17:00 土・日・祝も毎日)

《もくじ》

- P1.表紙:311 追悼式の写真
- P2.東日本大震災犠牲者追悼式
- P3. 交流会:あおぞらカフェ「小豆カ
イロ」、ふくしま交流会@豊橋
- P4~5. 鶴島さん聞き取り
- P5. パッチワーク&刺しゅう交流
- P6. 「おすすめの一冊」①、②
- P7. 愛知県被災者支援センター
2022年度の活動まとめ
- P8. ユース世代の東北交流ツアー、
イベント情報、さっちゃん
のレシピ、編集後記

東日本大震災 犠牲者追悼式

東日本大震災犠牲者追悼式が、3月11日(土)14時30分から15時まで、鶴舞公園普選記念壇(名古屋市)で行われました(主催：東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや実行委員会)。今回は、あの震災から12回目の追悼式となりましたが、お天気に恵まれ、東北・関東からの避難当事者の他、高校生など若い世代の参加者も多く、700人を上回る人びとが集いました。



震災時刻の14時46分には、東北方面に向けて全員で黙とうを捧げ、犠牲者を悼みました。家族や多くの知人・友人を亡くされた避難者の方もあり、12年の年月の経過は「あっという間の日々」と話されていました。

また、福島原発事故から避難されているご夫婦も、毎年必ず参加されていて、それぞれの12年をかみしめておられるようでした。

会場の記帳・メッセージコーナーは、大震災の記憶があまりないユース世代・大学生等が担当していて、この場に来ることで、「当時の被害が今なお続いていることを実感することができた」という声がありました。

震災は過去のことでなく、最近ではトルコ・シリア地震など世界各地でも発生していたり、戦争や紛争、気候変動などの被害とも重なり、弱い立場の人々が苦しんでいて、一人ひとりに支援の手が届くことを願います。

同時に、近い将来予想されている大きな災害へ向けて、教訓として学び備える必要のあることを思い起こさせる一日だったのではないのでしょうか。



記帳・メッセージコーナー



伝えていく、
忘れない想い



ゴスペルソングの流れる中、献花する人々



制服姿など若者が多く参加

各地・各所の交流会

①あおぞらカフェ「小豆カイロ」ーオンライン

2月12日(日)のオンラインあおぞらカフェは、2世帯2名(講師・ボランティア他の総勢7名)で、参加を予定していた急きょ都合が合わなくなった方が数人あり、少し寂しい感じもしました。しかし参加された方は、事前送付していたカイロの材料を縫い合わせたり、小豆と共に使用したラベンダーの香りも楽しみながら、講師の鈴木さんの説明に耳を傾け取り組みました。「できた!」という声誰かから発せられ、ちょっと焦る人も。手作業に集中する時間と、出来上がったものを電子レンジで温めてカイロとして使って「温かさで軽さがちょうどいい!」という感想も出て、あっという間に終了しました。



【アンケートより】

◎「楽しかったです♥待ちに待ったお茶カフェ。毎日がだんだん暗くなって、は〜っ、溜め息ばかり。そんな中楽しい、楽しい。そして元気な顔を拝見して、連日の落ち込みが嘘の様に、はれぱれました」

◎「いつも癒しの時間をありがとうございます。今回も今の季節に大切な温活ができ感謝です。(中略)部屋の香りがとても良く幸せな気分になります。鈴木さん、皆さんありがとうございました」

②「ふくしま交流会」@豊橋

2月18日(土)に、ライフポートとよはしで、ふくしま交流会を行いました。以下のそれぞれのコーナーで楽しみました。参加者は14名(内子ども1名)でした。



簡易版甲状腺エコー検診



クラフトコーナー



《アンケートより》



ローズピップの手浴



○10年という長きにわたり、本当に続けていただいて、ありがとうございます
○楽しく話げできました

- 楽しかった。エコー検診時、先生にいろいろ聞いて良かった
- 久しぶりの集いで、楽しませて頂いています
- 手浴で心もあたたまりました
- 皆さんに会えて、うれしかった



相談コーナー

寄稿 (2) // 鶴島道子さんから聞き取り

大学で復興支援の団体に所属し、岩手県陸前高田市と交流をさせて頂いています。陸前高田の自然の美しさ与人々の温かさに魅せられて、個人でも通うようになりまし
た。陸前高田についてもっと知りたい・名古屋でもできることをしたいとの思いから、
名古屋周辺に住んでいる陸前高田出身の方を紹介して頂き、今回は鶴島道子さんから
お話を伺いました。鶴島さんとは初めてお会いしたので少し緊張しましたが、明るい
雰囲気と素敵な笑顔のお陰で、すぐに自然に打ち解けてお話しさせて頂くことができ
ました。(岡田彩花 名城大薬学部)



【人々のつながり】

鶴島さんは、生まれも育ちも仕事も陸前高田で、震災当時までは一生陸前高田で暮らすと、当たり前
前に思っていたそうです。私が陸前高田で知り
合った人の名前を挙げて「〇〇さん知ってます
か?」とお聞きすると、「もちろんですよ!!」というお
答えばかりでした。昔はスーパーに行ったら知り
合いだらけで、「あっちでもこっちでも話して、買
い物に時間が掛かって大変だった」というお話も
してくださり、かつての人々の繋がりや鶴島さん
のお人柄が良くわかりました。

陸前高田から名古屋に移住してきた当初につい
て、「高田では鍵かけないのが当たり前で、帰宅し
たら、玄関前にはどさっと魚や野菜が置いてあっ
たりしてね。愛知県に来て、他人の家に行ったら
インターホン押さなくちゃいけないとか、電話に
出てもすぐ名前を言わないように気をつけるとか、
人との距離感に慣れるのが大変だったわ」とおっ
しゃっていました。私は名古屋から陸前高田へ行
った際、鶴島さんと同じように、向こうの方々の
暮らしや距離感に戸惑った経験もあるので、とて
も共感しました。どちらが良いとか悪いとかでは
ないけれど、とにかく陸前高田では、ほぼ初対面
なのに親戚のように接してくださる場面がありま
す。はじめての土地で想定外の温かいおもてなし
を受けると、大げさに言うと「人間っていいな」と
いう気持ちになります。

【震災当時】

鶴島さんは職場から自宅に戻り、高台に避難さ
れて奇跡的に生き残られました。しかし職場の同
僚の皆さん、勤め先にいたご主人、そして高田市

内にいた沢山のお知り合いを津波で亡くされてし
ました。「地震の後、職場から許可を取って帰るとき、
気をつけて帰ってね!またね!って、別れたのが
最後になってしまった人もいたし…」 「私は津波
が来るのを見て、80代の父母を連れて車で逃げた
の。ルームミラーで黒い壁が見えて、もうだめだ
と思ったけど、本当に奇跡で助かったの。遺体名
簿には知ってる名前ばかり、安置されている遺体
もみんな知っている人だった…。午前中は遺体の
名簿を作る仕事、午後は遺体安置所を回ったの。
知り合いは6割以上亡くなって、同僚も111人亡
くなったかな…」と話してくださいました。

【亡くなった方々への思い】

無念にも亡くなった方々や、自分が生かされた
ことへの様々な思いがあったことと思います。つ
いさっき話した人が目の前で遺体になってしまっ
たなんて、誰も見たくも信じたくもない現実です。
でも、そんな現実もあったんだということを忘れて
はならないし、繰り返してはいけないという思
いを感じました。

震災後のことについては、「仮設住宅は、入るま
で周りの人の名前も分からないし、被災した人も
バラバラになったから、町内会も解散したの。高
田に居たいとも思ったけど、被災地に医薬品が届
かなくて、難病だった父の体調が悪化してしまっ
たのと、人との繋がりが無ければどこにいても一
緒だなと思ったから、愛知にすんなり来られたか
な。それまではご近所さんに声かけて助けてもら
える部分もあったけど、頼れる人もみんな失った
から、高齢の両親を家に残して仕事やお出かけも
できなくなっちゃった」

【大切な故郷】

「何もかも流された家はアバッセ（2017年オープンの大型複合商業施設）の駐車場になっていて、それまでずっと住んでいた家の場所が、住居を建てられない土地になって、住所も失ったのがショックだった。家が流されたから100万円はもらったけど、貸していたアパートとかお店は何も保証は無かった…私にとっては、もう高田は新しい街になった。戻るのには10年以上かかるだろうなあ、と思って諦めた」のだそうです。

鶴島さんにとっての大切な故郷。一度壊れてしまった街は元には戻らない。外部の人間は新しい街を簡単に受け入れられても、陸前高田に住み慣れた皆様の心の中には、今なおかつての街の思い出が鮮やかに残っていますし、外部の私達にも震災前の陸前高田の街を教えてもらうことで新たな気づきを得られる、とも思いました。

【震災から12年】

震災から12年が経った今、改めて3.11を振り返り、「震災後すぐの頃は、遺体を見ても涙が出ず、灰色の世界だった。心をガチガチに固めてないと

生きていけなかった。夏頃に急に心がしんどくなって、病院に行ったら、医師から『辛くて当たり前だよ。泣いていいんだよ』と言われて、心が楽になった。「命さえあれば、やり直せる。震災以降、何にしろ切り替えが早くなった。起きたことは仕方ないんだもの。でも震災のこと、高田のこと、忘れないでほしい」とおっしゃいました。

【高田を忘れない】

陸前高田を離れても、高田とともに生きる鶴島さん。その懸命に前を向いて進む姿に、私も元気を



東日本大震災津波伝承館(陸前高田市)

を頂きました。改めて、高田との出会い、鶴島さんとの出会いに感謝の

気持ちでいっぱいです。

私にとっての第二の故郷である高田に、「ただいま！」と帰れる日が待ち遠しいです。

パッチワーク&刺しゅう交流サロン

1/14(土)10:00から、東日本大震災避難者の自主グループ「パッチワーク教室」の定例会と、ウクライナ避難民の刺しゅうサロンが2

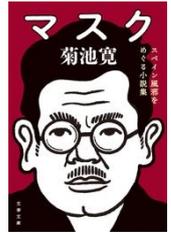
回目の交流会を行いました。東日本大震災の避難者が、ウクライナの伝統的な刺繍に興味を抱き、ウクライナの女性に教えて欲しいと希望されて、互いの趣味の手芸を通して交流することになりました。

前回、マリアさんが手作りのウクライナ料理をふるまって下さ

ったことから、今回は東北地方の郷土料理「芋煮汁」を味わっていただくよう準備しました。岩手県出身のパッチワーク教室の先生似内さんの味付けで、ウクライナの人たちは初めて食べる東北の料理に、「おいしい！」と評判は上々でした。途中から参加者が増え、お菓子の差し入れもあり、にぎやかで楽しい交流会となりました。



①『マスク』 菊池寛著 文春文庫



もう1月ほど前になるが、朝日新聞『天声人語』にこの小説が紹介された。時節柄一度読みたいと思ひ書店で購入した。全部で9頁の超短編。エッセイのような中身だった。それでも日本で流行ったスペイン風邪が、身近に書かれたものだった。

1918年～1920年にかけて流行ったスペイン風邪。世界の人口が20億人、日本の人口が5,500万人の時代。第1次大戦の総死者数が1,000万人、スペイン風邪の世界の死者数が2,000万～4,500万人、日本では38万～45万人だったとか。アメリカで始まったが、スペインでの流行が世界に報じられたから、付いた名前らしい。

1918年(大正7年)頃のお話。その頃は「太っていると頑健」と思われる時代で、実は心肺機能も内臓も健康ではなかった作者が、世間に流行った「流

行性感冒」を怖がり、下火になった春になってもマスクを外さない自分がいて、「病気を恐れて、伝染の危険を避けるのが文明人の勇気だ」と主張し、自分を弁護した。ところが5月になり、初夏の太陽の下ではさすがに外すことにした。そこに、20代の若い男がマスクをしているのを身近に発見！何と、その男に憎悪を感じた自分がいた。自分が世間や時候の手前、やりかねていることをこの青年は勇敢にやっているのだと思った。この男のそうした勇気に圧迫されたのだ。

今の皆さんはどちらですか？そして私は今後マスクをどうするのだろうか？私はできたら外したい！
(編集委員：瀧川裕康)

②絵本『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』

くさばよしみ編 中川学絵 (汐文社)

「より便利で、より豊かで、わたしたちは幸せになったのでしょうか？」

ウルグアイ第40代大統領のホセ・ムヒカさん。2012年、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた環境悪化した地球の未来について話し合う国際会議で行ったスピーチだ。南米の小国ウルグアイのムヒカ大統領は、公邸には住まず、給料の大半を貧しい人に寄付し、自分の農場で奥さんと質素に暮らし、「世界で一番貧しい大統領」言われた。しかしムヒカさんはスピーチで、人類の幸福とは何かを問いかけ、人びとの心を打ったのだ。ムヒカ大統領は問いかける。「わたしたちあわれな人類は、どんな未来を選ぶべきなのでしょう…このままではいけない、何とかしないといけないと、みんなが強く思っていることの現れです」と。皆、経済発展や大量消費などのために人々は働きづめ



で疲れ果て、環境悪化を引き起こし、危機に直面している。「しかし危機の本当の原因は、私

たちが目指してきた幸せの中身にあるのです。見直さなければならないのは、私たち自身の生き方なのです」と。「私が話していることは、とてもシンプルな事です…。人と人とが幸せな関係を結ぶこと、子どもを育てること、友人を持つこと、地球上に愛があること…。こうしたものは、人間が生きるためにぎりぎり必要な土台です。発展は、これらをつくることの味方でなくてはならない」と。このスピーチを目にして、私は何をどう変えられるだろうか？残された時間は少ない。

(編集委員：戸村京子)

【愛知県被災者支援センター2022 年度活動のまとめ *2012～2018 年度分は省略 2022 年度は暫定】

事業名	趣 旨 目 的	2011 年度	*	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
定期便の 発送	支援制度、交流会・相談 会、新聞スクラップ等の 情報提供	(月 2 回) 19 回		(月 1 回) 12 回	(月 1 回) 12 回	(隔月) 6 回	(隔月) 6 回
機関紙 「あおぞら」 発行	紙面による避難者が必要 とする各種情報と交流の 提供	(月 2 回) 19 回		(月 1 回) 12 回	(月 1 回) 12 回	(隔月) 6 回	(隔月) 6 回
イベント 等同時開 催交流会	企業・団体による企画(ス ポーツ観戦、演奏会、舞 台等)同時開催の交流会	37 回				13 回	9 回
交流会	避難者同士や避難者と支 援者がつながり、思いを 共有する場の提供	28 回 延べ 1004 人		46 回 延べ 476 人	21 回 延べ 148 人	8 回 延べ 157 人	10 回 延べ 146 人
相談会	弁護士・臨床心理士など 専門家を交えた各種相談 対応、支援制度の説明等	16 回		3 回	3 回	2 回	1 回
生活支援 品提供	企業・団体等から寄贈さ れた生活物資の提供	1,871 点			(マスク) 1,000 点		
見守り活 動(個別訪 問等)	避難者の状況把握や孤立 防止のための個別訪問や 電話連絡等	複数頻度 (未カウ ント)		訪問 58 件	訪問 27 件	訪問 26 件	訪問 14 件
支援調整 会議	市町村や保健師、社協、 専門家等と連携した地域 での支援体制の構築	(未カウ ント)		10 回	4 回	12 回	12 回
市町村 訪問	避難者情報を共有し、市 町村と連携した地域での 支援の定着	複数頻度 (未カウ ント)		延べ 14 市町村	延べ 45 市町村	延べ 22 市町村	延べ 50 市町村
意見交換 会(人材の 養成)	避難者支援に関わる人材 養成や支援協力のため意 見交換会・研修会等			意見交換会 2 回			
PS 支援チ ーム	個別支援のための専門家 や支援組織等との協議や 勉強会などの実施	会議 18 回 勉強会開 催		会議 24 回 学習会 2 回	会議 24 回	会議 14 回 セミナー 12 回	会議 12 回 セミナー 12 回
その他				相談件数: 137 件	相談件数: 123 件	相談件数: 154 件	相談件数: 145 件

3.11 被災地の今を知る～「東北交流ツアー」3/10～3/13

震災の時はまだ子どもだった人たちが、12年経って成人となってきました。そのユース世代が、岩手・宮城・福島を訪れ、復興状況を見たり、改めて自分の故郷を思う旅(主催:RSY)へ13人が出かけました。一人ひとりのその感想をお聞きしたいところですが、今回の『あおぞら』には間に合いませんでした。311を現地で迎え、フレッシュな目で見たい、感性豊かな心で感じた故郷を、また機会を見つけ、報告していただきたいと思います。乞うご期待。

【イベント予告情報】 *開催・内容等が変更になることがあります。詳しくは次号チラシでご確認ください。

開催日	イベント名	内容(主催など)	会場
5/14(日) 10:00~15:00	岩手県宮城県 気軽に茶飲み交流会	互いに近況を報告し合い、癒しコーナーや公園の散策を楽しもう！主催：同実行委員会	東海市しあわせ村
5/28(日) 10:00~15:00	甲状腺エコー検診 &交流相談会	共催:愛知県民主医療機関連合会 &愛知県被災者支援センター	千秋病院(一宮市)

さっちゃんのレシピ さつま芋 その② 「さつま芋の豚肉巻き」

【材料】 さつま芋中1本、豚肉の薄切り 150g(肩肉やロースなど部位は何でも良い)、塩少々、コショウ少々、油少々

【作り方】

- ① さつま芋は皮を剥き、薄くスライスして、さらに細切りにする
- ② 豚肉は、広げて塩とコショウを振りかける
- ③ ②に①を12～15本位のせ、クルクルまく豚肉が長いようだったら、適当に切る
- ④ フライパンに油少々を引き、③の肉の巻き終わりを下にして、火を点ける
- ⑤ 肉に焦げ目がつき始めたら、クルクル回し

て肉全体に焦げ目をつける

- ⑥ ⑤に水 50～60cc位入れ、蓋をしてさつま芋が柔らかくな

るまで蒸し焼きにする

- ⑦ さつま芋に火が通れば出来上がり
- ⑧ レタスかサラダ菜を敷いたお皿に盛り、出来上がり

※さつま芋のほのかな甘みと塩コショウ味の豚肉とのハーモニーがグーです。



《編集後記》 🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

- ・小学校時代に我が家でおやつに食べた「焼リンゴの味が忘れられない」と息子の友達がやってきました。奥さんたちも連れて。みんな結構いいおじさんになっていましたが、「これこれ、あの時の味だ」と、子どものように嬉しそうに食べていました (T.S)
- ・☆国会も どの自治体も 議員とは 国民市民 弱者作らぬ ☆弱い人 私が悪いと 否定的 みんな褒め合い 肯定が良い・・・9000首 達成記念 (T.H)
- ・桜がちらほら開花。あでやかな満開の桜はみんなの楽しみ。その前に、街路樹のモクレンの花が咲いていて、そのひとときわ清楚な白い花が、「忘れないで」とささやいているかのよう (T.K)